

地域で自立した生活を送る環境づくりを目指して
 下野市地域自立支援協議会就労部会

◇障がい者雇用の取り組み 事例①

曙フーズ(株)栃木工場は、従業員数100名のうち、障がいのある方は2名。障がい種別は両名とも知的障がいです。

・特別支援学校からの職場実習受け入れ

2週間程度の短期実習を年間3回受け入れ、そこでの適応状況や課題の洗い出しを行い、評価・指導を行っています。

・採用時の条件は一般と同じ

「挨拶・返事」「人の目を見て話す」「手洗いなどの衛生管理」が出来ることで、それは一般職員の採用条件と同じだそうです。

・(本人が働く)現場の理解

業務定着を図るには、会社の方針と現場従業員の思いを一致させることが大切であるため、適性、相性、理解度を常に現場担当者として話し合いながら丁寧に進めています。

◎本人へのインタビュー

製品のラベル貼りや箱詰め等出荷前の作業に従事しているYさん。周囲からは温厚で素直、仕事が丁寧で真面目な姿勢が評価されています。また、手先が器用なため、その強みを活かした業務配置になっています。

Yさんは、「箱入れが早くできる」と業(工)と作業技術が向上することがやりがいになっている様子が伺えました。

ドーナツ部門に従事しているEさん。入社3年目の今では仕込みから製造、又そこで使用する機械の洗浄・組立てなど一連の流れを把握し職場の戦力になっています。特に清掃に対する意識が高く工場内の衛生面の向上にも貢献しています。

Eさんの今後の目標を聞いてみたところ、「先輩が出来た時にどう指導するか」と意欲的な言葉を聞くことができました。



勤続3年目を迎えるEさん
翌日の餡準備の一場面



勤続15年目を迎えるYさん
賞味期限シール貼り

就労部会では、障がい者に対する市民の理解を深め、企業における障がい者雇用を促進することを目的に、市内企業組合を通じ、障がい者雇用に取り組んでいる企業を訪問・取材しました。今回は、そこで働く障がいのある方4名の雇用事例をご紹介します。

◇障がい者雇用の取り組み 事例②

(株)CKP栃木工場は、従業員数172名のうち、障がいのある方は、4名。障がい種別は、身体障がい2名、知的障がい2名です。

・職場体験実習の受け入れ

依頼があればいつでも実習生を受け入れる方針で「準備は大変ですが、それ以上にひたむきに仕事に取り組む姿勢は、従業員の学ぶべきことが多く、職場環境にも良い影響を与えている」とお話しいただきました。

・特別支援学校の生徒の印象

仕事にまじめに取り組む、挨拶がしっかりできて、礼儀正しい。三年前に実習から雇用につながった生徒は、「初めに教えた基礎を守り、慣れてきても決して怠ることなく、継続できている」とお話しいただきました。

・職場定着に向けて

モノづくりと人づくりは同じと考える、障がい者であっても自己肯定感を育み、仕事を笑顔で楽しいものにするため、長く同じ業務に携わることで自信をつけてもらうなどの配慮をしています。

◎本人へのインタビュー

製品へのシール貼りを担当しているSさんは、何種類ものシールで、それぞれの貼り方も違っているため、初めは間違いがあり、時間がかかっていましたが、今では一人前にできるようになりました。Sさんの今後の目標を聞いてみたところ、「所属している部署の仕事全て覚えていきたい。」と意気込みを語ってくれました。部材を塗装するロボットに製品を並べたり、付着した塵を落とす塗装前工程を担当しているUさんに、仕事をしたい嬉しいことを尋ねると「目標の時間内に塗装前工程ができたことです。」と仕事への熱意を答えてくれました。



勤続3年目を迎えるUさん(左) 監督者の方々と
勤続3年目を迎えるSさん 製品へのシール貼り

◎取材を終えて

障がいがあっても環境が整えば企業の人たちから期待される存在になれると確信できました。今後も障がい者支援に携わる者として、より多くの人が経済的自立を図り地域で生活できるようお手伝いをしていきたいと思っています。

地域自立支援協議会
就労部会

齋藤泰子
梁島和由
齋藤琢磨